



落果防止剤散布前に見直し摘果を！

今年の早生種の熟度は、平年より硬度・酸度ともに低い結果となっています。「落果防止剤の散布」を早めると、散布後の低温に遭遇し難いため着色が進まず、熟度が先行し果肉の軟化や油上がりなど品質低下の原因となります。また、今後1ヵ月予報では気温が高い日が多い予想となっており、着色が進み難い事が想定されますので、極端に早い散布は控えましょう。

着果量の多い園地では今一度見直し摘果を行い、ストップール適期散布とスグリもぎの徹底により、品質の良いりんごを生産しましょう！

1. りんごの肥大状況(8/1 調査) 平年を上回っており順調に推移しています。(cm)

調査地点/品種	つがる	ジョナ	王林	ふじ	ひろさきふじ	トキ	ぐんま名月	備考
藤崎	7.4	7.1	6.6	6.7	7.5	6.9	7.0	生育観測地点 藤崎管内：五林地区 和徳管内：津賀野地区 平年は当組合の平年値
和徳	7.9	6.9	6.5	6.8	-	-	-	
J A管内平均	7.7	7.1	6.8	6.9	7.5	7.0	7.1	
平年	7.4	6.8	6.3	6.1	6.9	6.8	6.7	

2. 薬剤散布

薬剤散布も残り僅かとなりました。気象庁の今後1ヶ月予報では平年より気温が高くなることが予想されます。気温上昇に伴い、病害虫の発生も早まります。散布最終盤も徹底して虫の予察や降雨前散布を行いましょう。

散布回数	散布時期	対象病害虫	基準薬剤及び調合順序	1000 当たりの調合量
11 8月中旬 500L/10a	8/13頃~	すす点・すす斑病・炭そ病・褐斑病 ハダニ類・モモシクイガ	イカズチ(WDG) 1,500倍 オマイト(水) 750倍 アリエッティC(水) 800倍	2袋(666g) 1袋(1.34kg) 1袋(1.25kg)
12 8月下旬 500L/10a	8/28頃~	すす点・すす斑病・炭そ病・褐斑病 ハダニ類・モモシクイガ	ダイパワー(水) 1,000倍	1袋(1kg)
13 9月中旬 500L/10a	9/12頃~	黒星病・すす点病・すす斑病 モモシクイガ・コカクモンハマキ ナシヒメシクイガ	ストライド(顆水) 1,500倍 オリオン(水) 1,000倍	2袋(666g) 2袋(1kg)

殺ダニ剤は、発生に応じて加用・選択しましょう。

3. 早生種の落果防止剤の散布について 早期散布は絶対ダメ！

今年は7月が平年より高く推移したことから、平年に比べ硬度・酸度が低い傾向にあります。このような状況で落果防止剤を「早期散布」すると熟度が先行し、着色に必要な低温に遭遇し難いため、鮮度の低下や着色難など品質低下につながる可能性が高まります。散布後高温が見込まれる場合は、散布日はやや遅らせるようにしましょう。

品 種	ストップール散布デー	使用方法
未希ライフ 早期着色系つがる きおう・サンつがる 葉取らずつがる	8月15日~20日	・倍 数 1,000倍 ・散布量 350~400L/10a ・散布回数 1回 ・単用散布・展着剤不要

最低気温が20を下回ってくれば、つがるの着色も進んでくる。
気温が高いうちから強く葉摘めば、日焼けや着色遅れにつながるはんでまねよ！



ストップール散布時の注意点

- つがる・・・早期着色系統であっても、樹齢が10年以上経過すると、熟期や着色にバラつきが多くなってきます。樹齢や樹勢に応じて散布日を調整するようにしましょう。
- きおう・・・ストップールの早期散布は、肥大が抑えられ小玉の比率が高くなります。また過熟による軟質果の発生も懸念されるため、適期に散布するようにしましょう。

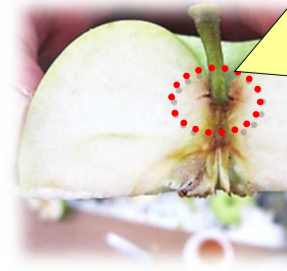
4. 適期収穫でおいしい『きおう』を！ スグリもぎの徹底を！

『きおう』も『つがる』と同様に、硬度・酸度が低い傾向にあります。このままで推移すると、着果量の多い樹はカチンコの多発と食味低下が懸念されます。もう一度見直し摘果を行い、食味の良い『きおう』を生産しましょう。

また、きおうは「スグリもぎ」が必要な品種ですが、生産量が少ないため「ガラもぎ」になりがちです。色値指標やカラーチャートを利用し、適期収穫を徹底しましょう。



つがるやきおうは「スグリもぎ」が重要だね！
着色が進んだものから収穫して、残りの果実の葉果率をアップさせよう！
スグリもぎをすることで着色が進んだり糖度が上がります。
きおう収穫時の色値は「2以上」です。



~きおう~
「内部裂果(カチンコ)ツル元の浅い果実はカチンコになりやすいため、見直しでは落とすようにしましょう。